

環境の現地調査の概要（騒音、振動、低周波音）

1．調査内容

工事の実施、自動車の走行及び換気所の供用に伴う環境影響を予測するために、現況における騒音の状況等を把握する必要があります。このため、以下に示す調査を実施したいと考えています。

騒音の状況：基準時間帯(昼間:午前 6 時～午後 10 時、夜間:午後 10 時～午前 6 時)毎の騒音の大きさを調査したいと考えています。

沿道の状況：建物の状況（建物の高さ及び階数）を調査したいと考えています。

振動の状況：基準時間帯(昼間:午前 8 時～午後 7 時、夜間:午後 7 時～午前 8 時)毎の振動の大きさを調査したいと考えています。

地盤の状況：地盤卓越振動数^{*1}を調査したいと考えています。

低周波音^{*2}の状況：道路沿道での低周波音の大きさを調査したいと考えています。

*1：地盤卓越振動数は、自動車が走行する際に発生する振動の大きさに影響を与える要因の一つで、地盤条件と相関があり、地盤固有の特性（地盤の固さなど）を表す一つの指標です。

*2：低周波音は、一般に人間が聴くことができる音の周波数範囲は 20Hz～20000Hz と言われていますが、100Hz 以下の音波のことをいいます。

2．観測時期

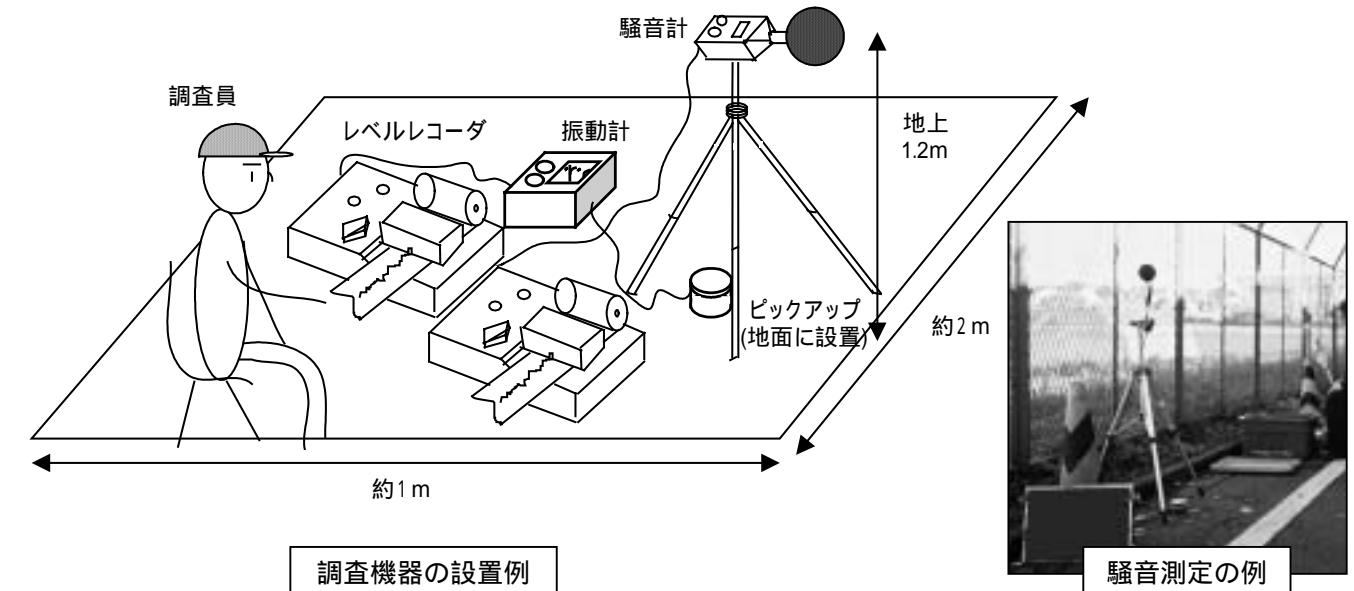
調査は、天候が安定し交通が 1 年間を通じて平均的な状況であると考えられる 1 日において、騒音・振動は、平日・休日、低周波音は平日を対象に実施したいと考えています。また、沿道、地盤の状況調査は、騒音、振動の調査と合わせて実施したいと考えています。

3．観測方法

騒音、振動、低周波音の状況の調査は、調査員が常駐し、機器等は歩道端等に 1m×2m 程度の範囲を使用して設置し、実施したいと考えています。

また、沿道の状況、地盤の状況の調査は、騒音等の調査時に現地で確認する方法により実施したいと考えています。

以下に、騒音、振動の調査機器の設置例を示します。



4．候補地点の考え方

ジャンクション及びインターチェンジの可能性がある周辺で実施したいと考えています。

（別紙、環境現地調査の候補地点（案）参照）